

航空教育 わが人生



「学校の歴史が私の歴史」と語る浅野敏美さん＝関市迫間、中日本航空専門学校

浅野さんは大手企業勤務などを経て、1970年に「航空整備士の資格を取って海外に技術留学したい」と入学した。同校は愛知県江南市で開校。1期生は34人で、現在に比べると規模はかなり小さかったが、全国各地から航空業界に進む志を抱いた学生が集結した。五十音順の学籍番号で浅野さんは1番となり、同校に入校したことに運命を感じたという。卒業後、教職員として勤務しながら航空整備士の資格を取得。留学への思いもあったが、当時の校長の「学生が在学中に国の認定資格を取れるような教育

南風

中日本航専前校長・浅野さん

一筋42年、空への夢支える

関市迫間の中日本航空専門学校に42年間勤務した前校長の浅野敏美さん(65)＝各務原市各務山の前町Ⅱが今年3月、退職した。第1期生として同校に入校。卒業後は教職員として、航空業界を目指す若者をサポートしてきた。創成期から共に歩んだ同校を「航空教育日本一」と誇り、「さらに多くの人に挑戦してほしい」と呼び掛ける。(松尾法尋)

3月に退職「若者の挑戦さらに期待」

記者のひとこと

記者の生まれた年に入学した「ザ・中日本航空専門学校」の浅野さん。人生の約3分の2を共に歩んだ同校の知名度は全国区となり、創立以来巣立った卒業生は1万1千人以上に。一方で、創立当初は名前が知られていなかったエピソードも聞かせてもらった。そうしたさまざまな経験が、特殊分野でキラリと光る同校や学生への愛着につながっているのだろう。

育機関にしたい」との思いに共感し、勤め続けようと決意した。同校は82年、関市の現在地に移転。国の認定校の資格を取得しながら、学科や規模を拡充した。浅野さんは広報や学生相談室などの仕事を2003年、同校の生え抜きで初めて校長に就任。学生の修養期間を延ばしたほか、学科を新設するなどの改革に取り組んだ。海外の学校との提携にも尽力した。

「どんな優れた機械でも扱つのは人間」との思いから、技術に加え人間性重視の教育を実践した。航空会社や航空宇宙産業への就職

率も向上。「この学校なら」と親子2代や兄弟で入学する学生も多かったという。夢をかなえた卒業生からお礼を言われたりすると「教師は素晴らしい仕事」と思つ一方、「子どもを赤にでも黒にでも染めることができ、責任は重大。一朝一夕に夢を開花させることはできないが、少しでも助けになれば」との思いでやってきた」と振り返る。

13年3月で校長を退いた後、1年間学監を務め退職した。「学校の歴史が私の歴史」と語る。今後は第二の人生を築く予定で、航空を目指す若者に「航空宇宙産業は今後も伸びる。中日本航空専門学校で夢を実現してほしい」とエールを送った。